



2学期の充実に向けて — 9月は所小読書月間 —

校長 関根 祐一

44日間の夏休みが明け、子ども達の歓声が学校に戻ってきてくれました。夏休みの前半は梅雨時のような天候、後半は連日の猛暑に熱帯夜、局地的な激しい雷雨に見舞われるようなこともありました。9月になっても暑さは続く見通しとのことですので、自然環境として大変厳しい夏であるように感じています。そうした中でも元気に一回りたくましく成長した子ども達と、今日2学期を迎えられましたことを何よりうれしく思います。子ども達のために、様々な思い出の場をつくってくださった保護者の皆様、地域の皆様に感謝申し上げます。誠にありがとうございました。

夏休みの間、私たち教職員も、サマーリフレッシュウィーク等で休暇を取得するとともに、教育計画・行事計画の細案検討、講師を迎えての教育研修や教材・教具・備品等の整備、校内環境安全点検等に取り組み、2学期以降の充実に向け準備を進めてきたところです。2学期も、子ども達の伸び・成長を適切に見取り、共に喜び、自信に繋げていきたいと思っています。

保護者の皆様、地域の皆様には、今学期もご支援・ご協力の程、何卒よろしくお願ひいたします。



教職員研修の様子

さて、暑さは続くようですが少し夕暮れが早くなったでしょうか。スーパーマーケットには

前面に秋の味覚が並び始めました。「食欲の秋」「スポーツの秋」「読書の秋」「芸術の秋」、
“〇〇の秋”は数々ありますが、所小の今月の生活目標は「本をたくさん読もう」です。暑いですからまずは涼みながらの読書になるかもしれませんが、次第に日も短くなり、落ち着いてじっくり本に親しむことができる季節を迎えます。ゲームやテレビ、楽しい動画や音楽の配信等、沢山の情報コンテンツが身近にありますが、本は自分のペースで向き合うことができますし、本を通して、人の生き方、努力や喜び、ときには辛さや悲しみを知り、思いや価値観を広げたり、考えを深めたりできます。

子どもの成長過程でも、読書の効果は大変大きなものです。物事の見方、考え方、自身の在り方の礎を培う大切な時期に、本に触れ、考え、想像する機会をたくさんつくることで、喜びや希望、夢に向かう心、自立心が養われたり、思いやりの気持ちや、自分とは異なる多くの考え方を認めることができる心の広さ、寛容性が培われていったりして、心の豊かさが大きく膨らんでいくものと思います。そして素敵な本とのめぐり逢いは正しく宝物となります。因みに私は、子どもの頃にサン=テグジュペリさんの「星の王子さま」(内藤濯さん訳)に出逢い、何年経って読み返しても、その度毎に心を動かされています。ずっと後になりますが、堀口大學さん訳のサン=テグジュペリさんの作品も読んで、今も大事にしています。ご家庭でも、お子さんが本に親しむことができるよう機会を設けていただければと思います。